

# シリーズ 下水道探訪

東京の足元を流れる下水道は、様々な顔を持っています。  
ここでは、下水道に関するいろいろな施設等をシリーズでご案内しています。

今回は、東京港の東側に位置する葛西水再生センター、砂町水再生センターと水処理の過程から発生する汚泥を処理している東部スラッジプラントの空撮写真を掲載します。



▲ 葛西水再生センターからは、隣接する「葛西臨海公園」の大きな観覧車が目の前に望めます。





▲ 青空に吸い込まれそうな煙突は、開設20周年を記念して地域の小学生からデザインを募集し、平成13年、赤白の煙突から、さわやかなグラデーションの煙突に生まれ変わりました。



▲ 葛西水再生センターの施設上部には発電効率の向上などを目指して開発した、新型太陽光発電設備が我が国で初めて本格導入されました。

▼ 緑色の施設が砂町水再生センターです。



▲ 手前に見えるのは新江東清掃工場です。



▲ 東部スラッジプラントでは、汚泥を炭化・焼却処理するとともに、廃熱を利用した蒸気発電を行っています。また、地域冷暖房の熱源として高齢者医療センターなどへ熱供給しています。



葛西水再生センターの新型太陽光発電設備の特徴は、

- 発電効率の向上： 太陽の向きに合わせてパネルが動きます。(一軸追尾架台)
- 省資源： 従来の多結晶型に比べシリコンが100分の1に削減できる薄膜太陽電池です。3,836枚の太陽光パネルが、一般家庭 約160世帯分に相当する電力(490kW)を発電することにより、温室効果ガスの発生を年間220トン削減します。これは、代々木公園の面積の森林が吸収する量に相当します。

▲ [一覧へ戻る](#)